

# 付：林業経済研究会・林業経済学会50年の歩み

林業経済学会50周年記念事業特別委員会

委員長 笠原 義人

## 1. 林業経済研究会の発足 1955年～1977年

林業経済研究会が創立（1955年）される9年前の1947年、財団法人林業経済研究所が設立されている。官庁・大学・林業・林産業の各界の指導者層が発起人となり、日本林業再建に資するための調査研究機関として設立したもので、林業経済研究者を中心とするいわゆる研究会とは性格が異なるものである。

（財）林業経済研究所の運営に参画した大学・試験場の林業経済研究者は、教授や管理職等の地位にあるトップにある人達で、林業経済研究会に参加した林業経済研究者は、中堅もしくは若手層である。林業経済研究会の創立に参加したのは大学・試験場の研究者だけでなく、林野庁や県の林務行政担当者や林総協（「森林資源総合対策協議会」）、農林公庫、全国森林組合連合会などの林業団体関係者も参加している。

1955年創立時の林業経済研究会の会員は28名であったが、1960年には101名、1964年には359名へと急激に増加する。全国の林業経済研究者をほぼ組織し、林野庁本庁だけでなく各営林局や県にも会員が拡大する。研究会の運営は、在京の会員が幹事団＝幹事会を構成して、大学・試験場・研究所の上層部が代表幹事となっている。幹事会は研究会の企画、会誌「林業経済研究会会報」の編集・発送、会費徴収・会計管理などすべてを行う実働組織でもあるので、若手・助手や大学院生等も幹事会に入っている。

## 2. 林業経済研究会の学会移行 1978年～1997年

研究会設立後20年を経過すると会員は300名を割る。林業試験場や東京教育大学の筑波学園都市への移転、林業経営研究所の林政総研への改組、そして国有林野事業（林野庁）の大幅な「合理化」・人員削減は、在京の会員が担ってきた研究会運営を大きく改変させることになる。1978年に林業経済学会が誕生し、それまで代表幹事の下に置いてきた事務局を（財）林業経済研究所に固定し、林業経

済学会と林業経済研究所との提携が定着する。学会会員数も360名余へ回復する。

学会移行後も、会の運営は関東在住（東京に加えて筑波、宇都宮も圏内にする）の会員で構成する幹事会方式を踏襲した。幹事会には、大学・試験研究機関（森林総研、林政総研）、全国森林組合連合会そして林野庁の会員が、それぞれの組織・機関を交替しながら代表して参画した。

### 3. 学会運営の抜本的改革 1998年～

学会移行（1978年）後も、会の運営が従来からの幹事会方式で行われてこともあって、学会運営の抜本的改革が必要となっていた。1983年には組織運営を検討する特別委員会が設置され、改革方向が検討されたが、実行するまでには至らなかった。1993年には改革の実行を求める要望書が幹事会に提出される段階に及び、特別委員会等の検討をへて、1998年に学会運営の抜本的改善が実現された。

幹事会に替わり、評議員会の中に理事会を設置して運営組織とし、学会運営業務の全国化を図ることとし、九州大学、北海道大学、岩手大学、愛媛大学等、首都圏以外の会員も評議員・理事・主事として参加する体制が実現した。学会誌（『林業経済研究』）の編集委員会（先行して1995年に設置）、学会賞の創設などあらたな取組みが行われている。

# 林業経済研究会・林業経済学会50年の歩み一年表一

2006年 9 月 笠原 義人 作成

## 1947年 2 月27日 財団法人林業経済研究所設立発起人会

官庁・大学・林業・林産業界の当時指導的な地位にあった74名が名を連ね、発起人会当日は37名が出席。

設立趣意書：「林業の刷新改善を図るためにはこれに関する自然科学方面の発達を促して技術水準を高める必要があると同時に、社会科学方面の調査研究を大いに進めなければならないと信ずる。然るに現在これに対する施設の見るべきものは殆ど皆無というも過言ではない状態である。よってこの欠陥を補い、斯界に寄与しようとする趣旨の下に、林業経済研究所の設立を企画した次第である」。

この研究機関の在り方：「本研究に於いては、その業務が聊かも他から制肘されることなく、独立不羈の立場に於いて中正な道を歩みう得るところの純然たる民主的調査研究機関たらんこと所期している」。

## 1947年 6 月24日 (財) 林業経済研究所 設立認可

「本研究所は林業経済に関する一切の調査研究を行い、日本林業再建に貢献することを使命とする」(財団法人林業経済研究所要項)。

設立時理事：早尾丑麿 (理事長)、太田勇治郎 (所長)、片山茂樹、吉田正男、藤林敬三、野村進行、戸田武俊

## 1948年 5 月 月刊『林業経済』誌創刊

「林業問題は終戦後相対的にその重要性が高まったが、学会の現状では未だ専門雑誌を刊行する段階に達していない…ささやかであるが、全国同学の士の協力体制が進んできたので、ここに背水の陣を敷き、雑誌林業経済の刊行に着手した」(『林業経済』創刊号、編集後記－太田勇治郎所長)

## 1955年 5 月 7 日 林業経済研究会創立総会 於：林総協会議室

本林業経済研究会は「林業経済に関する理論および応用の研究ならびにこれら研究者の連絡協同を目的とする」(林業経済研究会規約第2条)。

役員：倉沢博、大島信夫、筒井迪夫、野村勇を選出。

会員名簿：有水彊 (東大)、江畑奈良男 (林試)、遠藤嘉数 (林総協)、福岡克也

(東大), 福島康記 (東大), 萩野敏雄 (林野庁), 原敬造 (林試), 飯島富五郎 (教育大), 紙野伸二 (林試), 兼岩芳夫 (静大), 笠原六郎 (東大), 倉沢博 (東大), 松本謙蔵 (東大), 松島良雄 (林試), 森星之介 (農林公庫), 野村勇 (林試), 野々村豊 (農工大), 小田許久 (林野庁), 大福喜子男 (林総協), 大島信夫 (林野庁), 太田研太郎 (林試), 大内晃 (林試), 篠田六郎 (東大), 鈴木尚夫 (林業発達史調査会), 手束羔一 (林野庁), 筒井迪夫 (東大), 吉永彰吾 (林業発達史調査会), 沼田善夫 (東大), 以上28名。

原則として月1回の研究会開催, 月1回の会報を発行

#### **1956年 (財) 林業経済研究所役員・所員**

理事: 野村進行 (理事長), 石谷憲男, 飯島富五郎, 早尾丑麿, 片山茂樹, 植田守, 大政正隆, 倉田吉雄, 松川恭佐, 藤村重任, 三浦伊八郎, 三浦辰雄, 柴田栄, 島田錦蔵, 佐木義夫, 永田竜之介

編集委員: ○小田許久, ○大福喜子男, ○野村勇, ○手束羔一, 飯島富五郎, 大内晃, 小沢今朝芳, 川床典輝, 横瀬誠之, 倉沢博, 松本守雄, 榎重博, 小柴辰二, 有水彊, 下平仁, 神宮司守 ○常任委員

所員: 野村進行 (所長), 早尾丑麿, 片山茂樹, 北島驥子雄, 長島辰五郎, 小堀卓, 大熊利子

#### **1956年4月10日 林業経済研究会第1回大会 於: 虎ノ門・霞山クラブ**

新幹事: 大内晃 (林試), 倉沢博 (東大), 大福喜子男 (林野), 紙野伸二 (林試)  
来賓: 早尾丑麿, 島田錦蔵, 野村進行, 塩谷勉

会員: 半田, 江畑, 鈴木, 野々村, 舟山, 松島, 澤田, 萩野, 太田, 大崎, 沼田, 大内, 岡村, 兼岩, 黒田, 飯島, 野村, 原, 猪野, 下島, 船越, 有永, 小関, 高木, 森田, 小林, 吉永, 福島, 笠原, 松本, 倉沢, 小田, 筒井, 紙野以上37名

#### **1959年度 林業経済研究会幹事**

有水彊 (代表, 東大), 鷺尾良司 (林経研), 岡和夫 (林野庁), 福島康記 (東大))

大会および毎月定期的に例会を開催。「林業経済学も一つの特殊経済学である以上, 経済学一般の潮流から独立することはドグマに陥る危険を持つ。したがっ

て現代経済学の動向に関心をもちつつ、その長所を積極的に取入れることにやぶさかであってはならない。そのためには依然として研究者相互の交流は重要性をもつであろう。」

**1960年3月末日現在** 林業経済研究会会員数 総数101名。東京在住会員62名（大学10，研究所24，官庁19，民間9），地方在住会員39名。

**1960年7月** （財）林業経営研究所設立

理事長・塩見友之助，所長・野村進行。主として国有林の調査委託を実施。

**1963年度幹事** 紙野伸二（代表幹事）

**1964年3月末日現在** 林業経済研究会会員 総数359名。東京126名，地方（北海道，東北，関東，中部，関西，中国，四国，九州）233名。

**1964年度幹事** 筒井迪夫（代表幹事），沼田善夫，安藤嘉友，舟山良雄，川上哲三，阿部正昭

春季大会（林学会の翌日）および隔月の例会

今年度の運営方針「会10年の歴史をかえりみても，研究者の層は上に厚く下に薄い。先人の貴重な経験を土台にして，今や新たに若い研究のエネルギーを発掘しなければならない時期にさしかかっている」。

**1965年度幹事** 福岡克也（代表幹事），村畠由直，原沢芳太郎，熊崎実，藤原信，入江昭夫，古牧敏正，笠原六郎

**1966年度幹事** 福島康記（代表幹事），南雲秀治郎，奥地正，古牧敏正，入江昭夫，田中茂，柳次郎

**1967年度幹事** 太田研太郎（代表幹事），小菅久，橋本智，村畠由直，鈴木喬，古宮英明，橋本英明

**1968年度幹事** 森巖夫（代表幹事），松本謙蔵，植崎健次郎，赤羽武，沼田善夫，有水彌，中野直枝，鈴木重近

本研究会の組織問題－学会への改組は，これまでの経緯，今後の問題点を十分にかつ慎重に研究する必要がある。

**1969年度幹事** 筒井迪夫（代表幹事），小林，朝比奈，飯田，村尾，中川，柴田，松本

**1971年度幹事** 舟山良雄（代表幹事）

会員数が増え、会員の研究方法論や分野の分化と多様化、研究会の歴史の積みかさねは、時として混迷や停滞を結果する虞れなしとしない。1971年度は「会員の自発性に依拠しつつ幹事会のリーダーシップの下に、現在の林業の転換期に際しての新局面の分析、従来からの研究成果の創造的展開、深化を図るよう、研究活動中心に会の運営をはかる」という前年度の運営方針を踏襲した。

**1972年度幹事** 田中純一（代表幹事）、赤羽武、奥地正、鈴木喬、山岸清隆、一樹洋彦（林野庁）、大橋邦夫、行武潔、神永政夫

**1972年**（財）林業経済研究所役員・所員

理事：蓑田茂（理事長）、孕石正久、平野孝二、飯島富五郎、子幡弘之、楠正二、箕輪満夫、島本貞哉、鈴木尚夫、堀庄七、田中茂

監事：小滝武夫、藤本和平

所員：鈴木尚夫、野口俊邦、大石真人、大沢キヌ、山田敬子

**1974年2月** 学会会員数 278名

現在のように事務局が毎年変わると、そのつど煩わしい変更の手続きが必要となります。幹事の固定化を防ぐという幹事団持ち回り方式にも、そろそろ弊害が現れだしたようです。問題は山積しています。研究会の在り方をも含めた真剣な論議が必要な時期にさしかかっていると思われる。

**1974年4月** 筑波大学開学（学長・三輪知雄）

**1974年度幹事** 小林裕（代表幹事）、小菅久、安藤嘉友、桐村剛、大橋勝彦（林野庁）、佐川義幸、真柄稔（神奈川県林試）

**1975年度幹事** 筒井迪夫（代表幹事）、三井昭二、小川誠、安藤嘉友、熊崎實、大桶治雄（林野庁）、大島克郎（林野庁）、黒田徹朗、小沢健二

**1975年10月**（財）林政総合調査研究所（林政総研）発足

林業経営研究所を抜本的に改革・改称して再出発。国有林中心の研究から林業経済面も取り入れた総合研究機関をめざす。理事長・三浦辰雄、専務理事・神宮司守。

**1976年度幹事** 野村勇（代表幹事）、加藤隆、赤羽武、大桶治雄（林野庁）、岡田誠紀（林野庁）、飯田繁、大淵弘行

**1977年3月** 林業経済研究会幹事会報告

林業試験場は1977年度より筑波学園都市へ移転することになりました。また、教育大学の筑波大学への移行も実態的にかなり進んでいます。この2つの団体は林業経済研究会の幹事団を構成する上で重要な役割を担ってきました。…この際、学会化を含めた組織面や例会・大会等の開催方法、「林業経済研究会会報」の発行方法などについても抜本的に検討してみる時期にきているように思われます。

**1977年度幹事** 安藤嘉友（代表幹事）、内山研史（林野庁）、小山孝（林野庁）、小池浩一郎、鈴木喬、中村三省、野々村豊、町田盛輝、山岸清隆

**1978年 3月** 林業試験場、東京目黒から筑波研究学園都市に新築の庁舎に移転

**1978年 4月** 林業経済学会誕生（←林業経済研究会）

学会への移行を総会で決定。①新規設立の形をとらず、会の名称変更という形で処理する。②事務所の定置が必要であり、（財）林業経済研究所に依頼する。③評議員会を設置し、評議員は各地域から選出する。

**1978年度幹事** 筒井迪夫（代表幹事）、鈴木喬、土屋俊幸、安藤嘉友、町田盛輝、中村三省、餅田治之、河田護郎（林野庁）

**1978年 7月** 学会会員数 368名

**1978年11月** 『林業経済研究』第94号発行（『林業経済研究会会報』第93号を継承）

**1979年 3月** 学会会員数 363名

**1979年 4月** 学術会議に学術団体として登録する。

林業経済学会事務の一部を（財）林業経済研究所に委託。

**1979年度幹事** 赤羽武（代表幹事）、柳次郎、笠原義人、飯田繁、河田護郎（林野庁）、餅田治之、宮林茂幸、志賀和人、小池浩一郎

**1980年度幹事** 福島康記（代表幹事）、飯田繁、岩川尚美、柳幸広登、河田護郎（林野庁）、山之口誠人、土屋俊幸、三井昭二

**1980年** （財）林業経済研究所役員

理事：塩谷勉（理事長）、安藤嘉友、大内晃、大福喜子男、大矢寿、公平秀蔵、子幡弘之、塩島厚一、鈴木尚夫、田中茂、筒井迪夫、手束平三郎、野々村豊、平野孝二、福森友久、松島良雄

監事：遠藤嘉数，小田許久

**1981年度幹事** 小川誠（代表幹事），鷺尾良司，山岸清隆，舩黒直次，鈴木喬，塩澤南海治，鶴助治，菊間満，周藤眞（林野庁），山之口誠人

**1982年1月** 学会会員数 333名。このうち『林業経済』誌購読者129名，林学会会員126名。林業経済学会・林学会・『林業経済』誌購読の3つの会員であるものは76名。

**1982年度幹事** 鷺尾良司（代表幹事），笠原義人，鈴木喬，高橋教夫，周藤眞（林野庁），渡辺昭治，黒瀧秀久，土屋俊幸，坂本一敏

**1983年度幹事** 熊崎實（代表幹事），坂本一敏（林野庁），笠原義人，鈴木喬，高橋教夫，餅田治之，桑山公一，黒瀧秀久，山之口誠人

**1983年11月** 林業経済学会組織運営検討委員会（委員長・赤羽武，小川誠，塩澤南海治，鈴木喬，鶴助治）「林業経済学会組織運営に関する検討結果に対する回答」

## 1. 問題の背景

(1) 戦後の激動期に産声を挙げた林業経済研究会（以下，研究会という）は，旧来の林業経済研究を批判し，その中から真に科学としての林業経済研究（経済論，政策論，経営論等）の構築を志した数十名の若きエネルギーを結集し，1955年に誕生した。爾来，本研究会は，量的にも質的にも飛躍的に発展し，林業経済研究者をほぼ結集することによって，わが国林業経済研究の推進母体として機能してきた。

(2) 1978年4月，この研究会を改組することによって林業経済学会（以下，学会という）が生まれた。研究会の発展に伴うエネルギーの蓄積によって，底流として次第に強くなってきた学会への志向がしからしめたものである。数十名をもって発足した研究会が，350余名を数える学会へと改組されたことは，それまで研究会を担ってきた研究者にとっては今昔の感のあるところであろうが，全研究者にとっても一大画期をなすものであったといわなくてはならない。

(3) しかし，問題がまったくないわけではない。年2～3回の学会誌の発行，研究会の開催という学会の在り方は，研究会時代に比べて発展してきているとはいえ，内容的には変わっていない点も少なくない。特に学会にとって重要な機能



を果し、その存在を内外にわたって意義づける学会誌についてみると、量的にも質的にも多分に問題があるところであるし、学会の組織・運営についてみると、これもいくつかの点で重大な問題を持っていることを指摘しなくてはならない。

(4) 一方、林業経済学会をめぐる外的条件に眼を転じると、これまで陰に陽に戦後の林業経済研究に大きく寄与しただけでなく、研究会及び学会の発展を支えてきた林業経済研究所をめぐる生じている困難な問題があることを知らなくてはならない。同研究所は、『林業経済』誌の発行を通じて林業経済研究者を育成し、研究会および学会を支える上で重要な役割を果たしてきた。しかし、林業経済研究所は、近年来、その在り方を含めていくつかの問題を持つに至り、それはまた全林業経済研究者及び学会の在り方に重大な問題を提起するに至っている。

(5) このような学会をめぐる諸問題は、基本的には数十名で発足した研究会の組織運営が350余名を数える現在の学会にそのままの形で持ち込まれているところにあるとともに、学会をめぐる困難な諸問題、特に外的条件を内部化しないまま推移してきているところにあると考える。

(6) このような状況は、近い将来に限定した場合でも、学会に対して早晩重大な問題を提起することが予想され、学会の新たな対応が必要となっていることを示しているのである。

## 2. 検討結果(略)

1) 学会誌の充実について、2) 学会の組織の改善について、3) 学会の運営の改善について、4) 現行体制からの移行措置について

**1983年11月** 評議委員会検討資料：林業経済学会の発展方向―「組織運営に関する検討結果」をふまえて―

### 1. 問題の背景

(1) 学会移行(1978.4)から5年余を経過し、学会として除々なる発展、定着を評価しつつも、次の発展をはかるためには、①学会誌の充実、②学会運営の改善、③学会組織の整備など、問題点を率直に洗い出し学会のあり方を総点検する時期にきている。

(2) 学会の社会的責任は、『林業経済』誌をめぐる発行体制が長期的には必ずしも安定的ではない状況との関連もあり、会員の研究発表の場の確保など、学会誌

の充実についてより大なるものが要請されている。

(3) 学術会議(1979.4登録)の制度改革の動きや、国際化、学際化の動向の中で、当学会の社会的位置付けを客観的に認識する必要がある。

## 2. 発展方向を考える前提(略)

**1984年度幹事** 紙野伸二(代表幹事), 飯田繁, 加藤隆, 黒瀧秀久, 佐藤行夫, 外山武比古(林野庁), 古川泰, 餅田治之, 山之口誠人

**1985年度幹事** 安藤嘉友(代表幹事), 塩澤南海治, 小池浩一郎, 加藤隆, 加藤衛弘, 肱黒直次, 古川泰, 古井戸宏通, 外山武比古(林野庁)

**1986年度幹事** 笠原義人(代表幹事), 加藤衛弘, 塩澤南海治, 志賀和人, 野田巖, 古井戸宏通, 古川泰, 宮林茂幸, 矢部三雄(林野庁), 山岸清隆

**1987年度幹事** 福島康記(代表幹事), 沢畑亨, 小出芳英, 鈴木喬, 藤川昇(林野庁), 渡辺昭治, 野田巖, 宮林茂幸

**1988年度幹事** 柳次郎(代表幹事), 藤川昇(林野庁), 鈴木喬, 成田雅美, 柳幸広登, 佐藤行夫, 黒瀧秀久, 小出芳英, 佐々木亮, 馬場敏郎

**1988年9月** 林業試験場, 森林総合研究所に改組・改称

**1989年度幹事** 岡和夫(代表幹事), 肱黒直次, 河野充(林野庁), 小菅久, 小池浩一郎, 小出芳英, 佐々木亮, 寺下太郎

**1990年度幹事** 鈴木喬(代表幹事), 小池浩一郎, 塩澤南海治, 山崎敬嗣, 駒木貴彰, 河野充(林野庁), 久保山裕史, 笠原義人, 鈴木秀彦

**1990年3月** 学会会員数 325名(うち学生39名), 機関会員25

**1991年度幹事** 山岸清隆(代表幹事), 笠原義人, 古井戸宏通, 大森祥資, 加藤衛弘, 周籐眞(林野庁), 渡辺昭治, 斉藤恵巳, 山本信次

**1990年** (財)林業経済研究所役員・研究員

理事: 塩谷勉(理事長), 小田許久(所長), 安藤嘉友, 大矢寿, 紙野伸二, 熊崎實, 鈴木郁雄, 鈴木尚夫, 田中茂, 田中純一, 筒井迪夫, 手束平三郎, 野々村豊, 野村勇, 福島康記, 森本泰次, 輪湖元彦, 鷺尾良司

監事: 中山哲之助, 舟山良雄

顧問: 飯島富五郎

主任研究員: 三井昭二

**1991年 3 月** 学会会員数 339名（うち学生31名）、機関会員25

**1992年度幹事** 鷺尾良司（代表幹事）、大橋邦夫、肱黒直次、天野智将、周籐眞（林野庁）、渡辺昭治、斉藤恵巳、山本信次、加藤衛弘、安村直樹

**1992年 3 月** 学会会員数 308名（うち学生39名）、機関会員24

**1993年度幹事** 柳幸広登（代表幹事）、堀靖人、成田雅美、周籐眞（林野庁）、澤登芳英、志賀和人、宮国淳、山本信次、立花敏

**1993年10月** 西日本林業経済研究会有志18名（代表・岩井吉彌、堺正紘、井口隆史）、学会誌『林業経済研究』の充実を求める「要望書」を幹事会に提出

**1993年11月** 呼びかけ人・土屋俊幸、柿沢宏昭ら17名、学会の運営体制の再検討を求める「要望書」を提出

**1994年 4 月** 学会運営の改善に関わる特別委員会設置

**1994年度幹事** 永田信（代表幹事）、井上真、増田美砂、岡裕泰、周籐眞（林野庁）、桑山公一、山本伸幸、澤登芳英、佐藤孝吉

**1995年 4 月** 幹事会と別に編集委員会を設置する

**1995年度幹事** 宮林茂幸（代表幹事）、佐藤孝吉、加藤衛弘、渡辺昭治、河野充（林野庁）、澤登芳英、久保山裕史、桑山公一、横田康裕

**1996年度幹事** 田中純一（代表幹事）、山本信次、武田八郎、河野充（林野庁）、鈴木秀彦、都築伸行、比嘉宏仁、金才賢、岡野竜馬、田村早苗

**1997年 4 月** 学会誌発行年3回化

**1997年度幹事** 餅田治之（代表幹事）、

**1998年 4 月** 学会運営の改善

①幹事会に替わり、評議員会の中に理事会を設置して運営組織とし、学会運営業務の全国化を図る、②会長は評議員の互選による。任期は2年とする。③理事は会長が評議員の中から指名し、各担当理事は主事を指名する、を決定。なお、1998年1年は試行期間とする。

**1998年度役員** 笠原義人（会長）、理事：餅田治之、堺正紘、石井寛、加藤隆、永田信

**1999・2000年度役員** 会長：笠原義人、理事：餅田治之、堺正紘、石井寛、加藤隆、岡田秀二、泉英二

**2000年** （財）林業経済研究所役員

理事：福島康記（理事長）、田中純一（所長）、今村清光、大嶋顕幸、岡和夫、熊崎實、田中茂、田中正則、中村三省、永田信、西田尚彦、藤沢秀夫、真柴孝司、三澤毅、箕輪光博、宮林茂幸、餅田治之、鷺尾良司、渡邊恒

監事：沼田善夫、舟山良雄

顧問：小田許久、紙野伸二

研究員：中川恒治、馬場裕典

**2000年 3 月** 学会会員数 437名（うち学生111名）、機関会員38

**2001・2002年度役員** 会長：堺正紘、理事：泉英二、志賀和人、岩井吉彌、井口隆史、遠藤日雄、永田信、柳幸広登

**2001年 4 月** 学会賞創設特別委員会、50周年記念事業特別委員会設置

**2002年 4 月** 林業経済学会賞および林業経済学会奨励賞創設

**2002年11月** 不正引用問題調査委員会、学会名称検討特別委員会設置

**2003年 3 月** 2002年春季大会シンポ不正引用問題の調査結果

研究者としてモラルに反する行為があったと認定、当該論文を抹消することが総会で報告

**2003・2004年度役員** 会長：石井寛、理事：永田信、土屋俊幸、岡田秀二、神沼公三郎、堀靖人、宮林茂幸

**2004年 4 月** 2002年春季大会シンポ不正引用問題の当該会員に退会勧告を決定したと総会で報告

**2004年 5 月** 学会会員数 424名（うち学生108名）、機関会員41

**2005・2006年度役員** 会長：餅田治之、理事：土屋俊幸、岡田秀二、神沼公三郎、堀靖人、宮林茂幸、志賀和人、川村誠、柿澤宏昭、佐藤宣子

**2006年** （財）林業経済研究所役員・所員

理事：福島康記（理事長）、鈴木喬（所長）、笠原義人、熊崎實、田中正則、永田信、西田尚彦、真柴孝司、三澤毅、箕輪光博、宮林茂幸、餅田治之、渡邊恒

監事：加藤隆、武田八郎

顧問：紙野伸二、小田許久

所員：鈴木喬、奥山洋一郎、青木美枝子

## 林業経済研究会・林業経済学会事務局

1955年	文京区	東京大学農学部林政学教室
1956年	目黒区	林業試験場経営部
1957年		東京大学農学部林政学教室
1958年		林業試験場経営部
1963年	文京区	林業経営研究所
1964年		林業試験場経営部
1965年		東京大学農学部林政学教室
1966年		林業経営研究所
1967年		東京大学農学部林政学教室
1971年	千代田区	林業経済研究所
1972年		林業試験場経営部
1973年		林業経営研究所
1974年	目黒区	東京教育大学農学部林政学教室
1975年		林業試験場経営部
1976年	文京区	林政総合調査研究所
1979年	目黒区	目黒コーポラス B610 林業経済学会
1983年	文京区	伝通院ビル307号 林業経済学会
1986年	北区	フレンドリーハイツ201号 林業経済学会

## 資料

- 1.『林業経済研究会会報』
- 2.『林業経済研究』
- 3.林業経済研究所『創立25周年記念・25年の足跡』1972年
- 4.林業経済研究所『林業経済研究所四〇年の歩み』1987年
- 5.香田徹也編『日本近代林政年表』日本林業調査会，2000年
- 6.林業経済学会理事会・評議員会配布資料